

「CIT Brains」世界一



'21/'22 ロボカップ・バーチャルサッカー



④ ロボカップ・サッカーのバーチャル画面(左側が本学ロボット)
⑤ 自律サッカーロボットの実機を前にCIT Brains チーム

未ロボ生ら29人

本学の未来ロボティクス学科を主体に有志で組織するヒューマノイドロボット開発チーム「CIT Brains」(29人)が、2021年12月19日から22年4月17日まで約4カ月間、オンラインで開かれた「RoboCup Humanoid League Virtual Season (ロボカップ・ヒューマノイドリーグ・バーチャルシーズン) 2021/22」で見事、優勝を果たした。

サッカーの現実の動きを模倣してコンピュータ上で自動的にサッカーを行うバーチャルでの世界大会。特に認識や行動決定に関して、人工知能(AI)を含めてどれだけ優れたソフトウェアを開発するかが勝負の分かれ目となった。CIT Brainsは林原靖男・未来ロボティクス学科教授の指導の下、入江清・未来ロボット技術研究センター(fuROR) 主席研究員のアドバイスを得て、サッカーをプレーする人工知能を研究・開発するという困難な課題に取り組み、「世界一」という栄冠を手にした。

試合は、開発が間に合わなかったり、途中棄権したチームもあり、結果的に世界の7チーム(ドイツ2チームと日本、ブラジル、イラン、オーストラリア、カナダ各1チーム)で、まず総当たり戦。その勝ち点を基にトーナメント戦が行われた。CIT Brainsは総当たりの戦を1位で通過、準決勝は6-1でPRC Berlin

を破り、決勝はオランダの神戶隼さん(未来ロボティクス学科4年)は「試合が行われる(ドイツ)を降し、決勝戦はオランダの神戶隼さん(未来ロボティクス学科4年)は「試合が行われる勝利した。ロボカップは「2050年までにサッカーW杯チャンピオンに勝つ自律型のヒューマノイドロボットを作る」という目標を掲げて1992年に国際委員会が発足。97年に名古屋で第1回世界大会を開いて以来、毎年世界各国で開かれてきた。しかし、コロナ禍の影響で一昨年、昨年と実機のロボットを使っていた世界大会が中止となった。その代わり、コンピューターの中で現実を模倣するバーチャルでの開催を国際委員会が模索。昨年6月に続いて、今回も、オンラインでのシミュレーション競技の形態で世界大会が開かれた。

輝かしい実績
CIT Brainsは2006年のチーム結成以来、林原教授の指導でロボカップに挑戦。14年ブラジル、15年中国大会のサッカー・キッドサイス部門で優勝。16年、17年、19年は同部門で3位入賞と

NEWS CIT

2022 5.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344
<https://www.it-chiba.ac.jp/>
毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

2面	大矢画伯に卒業証書授与/ブチスポット火山からプレート構造を新提示/国際ロボ展に鈴木上席研究員が参加/本学広告が優秀賞/大学案内23年版が完成
3面	令和4年度予算案を承認
4面	80周年に学食チケットサービス/「ロケガ」、高校生募集/新任紹介

CIT Brainsメンバー

戦略開発 桑野雅久(大学院1年)、神戶隼(学部4年)、西尾唯右吾、小川晴生(同3年)、松山裕作、保科瞬、長谷川拓輝、茂郁良(同2年)▽画像処理 佐藤暖、横尾陸(同4年)▽キックモーション(機械学習で動きを最適化) 野口裕貴(同▽歩行制御(高速な歩行を実現) 井上颯、三浦優太(同▽ロボットモーターの作成(実験で動力学パラメータを導出) 久保寺真仁、川鍋清志郎(同▽運営との交渉 森圭汰(同3年)▽開発補助 松本康希(大学院2年)、塩島諒子(同1年)、新井亮大、岩澤尚樹、茂松勇毅、馬頭利子(学部3年)、長峰拓也、月野賢汰、相場裕斗、関取泉咲、宮脇海斗、藤崎賢蔵、花川主税(同2年)



今回の優勝にチームリーダーの神戶隼さん(未来ロボティクス学科4年)は「試合が行われる(ドイツ)を降し、決勝戦はオランダの神戶隼さん(未来ロボティクス学科4年)は「試合が行われる勝利した。ロボカップは「2050年までにサッカーW杯チャンピオンに勝つ自律型のヒューマノイドロボットを作る」という目標を掲げて1992年に国際委員会が発足。97年に名古屋で第1回世界大会を開いて以来、毎年世界各国で開かれてきた。しかし、コロナ禍の影響で一昨年、昨年と実機のロボットを使っていた世界大会が中止となった。その代わり、コンピューターの中で現実を模倣するバーチャルでの開催を国際委員会が模索。昨年6月に続いて、今回も、オンラインでのシミュレーション競技の形態で世界大会が開かれた。

輝かしい実績がある。バーチャルで行われた昨年は、ロボットのソフトウェアの優秀さを競うヒューマノイドリーグ・ベストロボットモデル賞部門で2位に入賞した。

フィールドに大きな変更がありました。今まではシミュレーター内の光源の位置が固定され昼のような環境でしたが、今大会ではまぶしい昼間や薄暗い夕方など、いろんな環境が毎試合ごとにランダムに設定されるようになりました。そのため、どんなフィールドにも対応できるように人工知能の認識を改良し、大きな変更にも対応できたことが要因と考えています。

林原教授は「昨年6月のロボカップ21で問題と

なっていた課題に取り組み、地道に改善していきましした。画像処理の進化が著しかったという。今後の目標を、神戶さんは「今年7月、タイのバンコクで開かれる実機での世界大会で優勝することを目標に、ロボットのハードとソフトウェアの両面で開発していきたい」と語っている。



大矢画伯に卒業証書授与

■ 自主退学し スペインで活躍

本学電子工学科(当時)に在籍後、スペインに留学し、現地で芸術家として活躍している大矢



授与式は津田沼キャンパス1号館20階の展望フロアで瀬戸熊修理事長、松井孝典学長が出席して行われ、大矢氏は緊張の面持ちで松井学長から証書を受け取った。

邦昭氏II写真左リに對し、本学は5月2日、40余年を経て卒業証書を授与した。大矢氏は1951(昭和26)年、山梨県甲府市生まれ。71年に千葉工大に入学し、20歳前後から独学で油彩画を描き始めた。美術への造詣を深めるため80年に退学してス



国際ロボット展で説明する鈴木上席研究員(手前左)

国際ロボット展

f u R O 関連技術を展示

■ 鈴木上席研究員が参加

世界最大規模のロボット専門展「2022国際ロボット展」が3月9、12日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「次世代人工知能・ロボットの中核となるインテグレート技術開発」展示ブースでは、鈴木太郎・未来ロボット

プチスポット火山からプレート構造を新提示

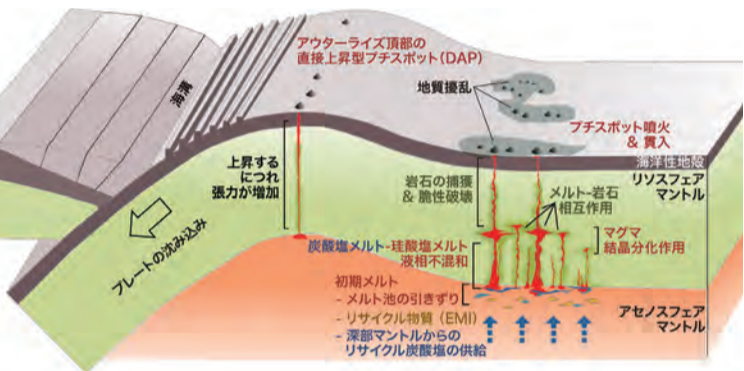
町田上席研究員ら



次世代海洋資源研究センター(ORCeNG)の町田嗣樹・上席研究員II写真IIと東北大東北ア

プレートの深海底にある小さな海底火山(プチスポット)を調べ、深部マントルへ沈み込む前のプレート構造を新たに提示した。成果は英ネイチャー・リサーチのオープンアクセス誌コミュニケーションズ・アース・アンド・エンバイロメントに掲載された。

一方、プチスポット火山は2006年、日本海溝付近で発見された新タイプの火山。深海のプレート割れ目に沿って、直下のアセノスフェアのマ



ら得られる岩石は、アセノスフェアやプレートの性質、プレートテクトニクス理論への理解を深める手掛かりになり、最近、マリアナ海溝、トンガ海溝、スダ海溝、チリ海溝などでもプチスポットが発見されている。

2023年 大学案内が完成



千葉工大の最新情報を掲載した「2023大学案内」が出来上がったII写真。漫画・アニメで活躍する「宇宙兄弟」と本学がコラボして8年目。今回も、夢に向かって挑戦する大切さを伝えたII、とインパクトのある表紙が描かれた。

迷ったら、美しいほうへ



新聞広告賞で91年もの歴史を持つ毎日広告デザイン賞(毎日新聞社主催、経済産業省後援)の第89回入賞作品・広告主参加作品の部で、本学のブランド向上を図る広告「迷ったら、美しいほうへ」(15段カラーII CD・山中俊治、AD・岡本健、D・山中港、C・角尾舞、P・西部裕介)の各氏が制作II写真IIが、優秀賞

本学広告 優秀賞受賞

て、開発を担当している。勢推定などの説明にあたり、今回は新型コロナウイルスの影響で、今年度は前同展(2019年)には、16カ国から海外出張があり、64カ国から約7千人が来場した。今回は新型コロナウイルスの影響で、今年度は前同展(2019年)には、16カ国から海外出張があり、64カ国から約7千人が来場した。

次世代へ向けた研究や学生プロジェクトを追究とともに▽学科紹介▽教育内容▽施設▽キャンパスライフ案内▽クラブの紹介―と本学の魅力満載の内容となっている。今年度は、次々と立ち上がる研究センターについて詳細にプロジェクトの内容を掲載した別冊「最先端への追及へ」も作成した。いずれも、希望者に無料で配布する。

令和4年度予算案を承認

3月28日、東京カーデ
ンパレスで開かれた本学
理事会・評議員会で、令
和4年度予算案が承認さ
れた。

高等教育を 取り巻く環境

高等教育機関において
は、新型コロナウイルス
感染拡大防止が求められ
るなか、遠隔授業の質的
向上や対面授業と遠隔授
業の両立による学生満足
度の向上など教育研究活
動の充実を図ってきた。

経営を取り巻く環境
は、コロナ禍の影響に加
えて、18歳人口の減少、定
員管理厳格化の継続、日
銀によるマイナス金利政
策の長期化、補助金の傾
斜配分など、引き続き厳
しい要因が見込まれる。
本学では、令和4（20
22）年5月15日に創立
80周年を迎えるが、創立
100年に向けて、今後
もさまざまな改革を積極
的に実行していく。

令和4年度においても
学生たちに充実した学修
環境を与えるべく、新型
コロナワクチンの職域接
種などさまざまな感染対
策を講じたうえで、対面
授業を中心とした教育・
研究に力を注いでいく。
未来ロボット技術研究
センター（[Raghol]
がイタリヤの「A. Interna
tional Design Award &
Competition 2020-21」
の車両・移動性・輸送デ
ザイン部門で最高賞
のプラチナ賞を受賞し
たほか、ドイツの「[i
Design Award 2021]で
もプロフェッショナル
・コンテスト部門で「
Design Award」を受賞し
た。惑星探査研究センタ
ーでは、令和3年11月に
打ち上げられた超小型
衛星2号機（[SEES]）が
ダスト観測を開始し今後
5年程度の科学観測を予
定しているほか、科学
観測を目的として開発
中の小型ハイブリッド
ロケットが令和4年度
中に2回の洋上発射実
験を予定しており、軽
量化した成層圏微生物
採取のための捕集装置
の搭載を目指している。
また、元MITメディ
アラボ所長の伊藤穰一氏
を所長として、令和3年
11月に開設した「変革セ
ンター」では、社会のあ
らゆる分野の技術や文化
の研究者が集まり、今起
きているさまざまな問題
を解決するための技術的
なプラットフォームや文
化的なアウトプットを想
像し、「デザイン・設計し、
構築すること」を目的に、
国内外の機関と連携して
社会のデジタル化や宇
宙、気候、公衆衛生と医
学など多岐にわたる研究
開発に取り組んでいく。

事業計画

1 教育・研究

本学は、建学の精神を
実現するために、「教育
目標」並びに「学位授与
の方針」、「教育課程編成
の方針」、「教育課程編成
の実施の方針」及び「入
学者受け入れの方針」を
定め、ファカルティ・ディ
ベロップメント（授業内
容向上の取り組み）や外
部研究費獲得のための施
策等を強力に推し進め、
教育及び研究の改革・改
善に取り組んできた。ま
た自己点検及び第三者評
価等を通じて、3つのポ
リシーの一貫性について
継続的に評価を行い、更
にポリシーに沿った教育
研究活動が行われている
かどうかの評価を行い、
必要場合は見直しや新
たな計画の策定を行うこ
とによって、全学的な体
制の下でPDC Aサイク
ルを機能させている。
令和3年度は、新型コ
ロナウイルス感染症の蔓
延により、対面式授業を
中心に、一部オンライン
授業を取り入れる授業展
開となった。対面式授業
を実施するにあたって
は、感染防止対策とし
て、入構時の検温、手指
の消毒、衣服の消毒、教
室・研究室の定期的な換
気、室内消毒など全学を
挙げて実施している。一
部オンラインを取り入れ
た授業運営では、より教
育効果を高められる新た
な授業形態にも挑戦し
て、文部科学省からも好
事例として紹介された。
令和4年度は、このよう
な取り組みから得た貴重
なノウハウや知見をさら
に磨き上げ、対面形式の
授業でもオンライン形式
（ライブ配信形式、オン
デマンド形式）の有用性
を最大限に生かしなが
ら、新たな時代に向けた
本学としての独創的な授
業形態の確立を目指す。
また、令和3年度から

プログラムニング教育が高
校教育に導入され、社会
で求められる情報リテラ
シーが高度化しているこ
とから、既に実施してい
る「数理・データサイエ
ンス・AIの知識やスキ
ル」を活用していくため
の基礎的な素養を入学段
階で身に付ける教育プロ
グラムを、今年度からは
研究センターと連携し、
さらなる充実を図る。

令和4年度予算の概要

I【教育活動収入】

169・1億円（前年
度172・3億円）前年
度比3・3億円減）

学生生徒等納付金は前
年度比1・5億円増の1
47・0億円とするが、
全体では3・3億円程度
の減少を見込んでいる。

II【教育活動支出】

167・0億円（前年
度163・4億円）前年
度比3・6億円増）

①人件費は、退職金が
2・7億円減少、その他
の人件費も減少する見込
みで、前年度比4・2億
円減の予算とした。人件
費比率は41・9%（前年
度42・8%）である。

III【教育活動外収入】

教育活動外収入は受取
利息・配当金で3・8億
円を見込む（前年度比1
・1億円減）。教育活動
外支出の予定はない。

IV【特別収入】

特別収入は施設設備補
助金を見込み0・5億円
を計上した。特別支出の
予定はほとんどない。

V【基本金組入前当年度 収支差額】

6・4億円
△0・3億円（前年度
0・2億円）前年度比0
・5億円減）

VI【基本金組入額】

△0・3億円（前年度
0・2億円）前年度比0
・5億円減）

VII【収支差額】

以上の結果、当年度収
支差額は6・4億円の収
入超過、前年度繰越収支
差額は38・9億円のマイ
ナスであるので、翌年度
繰越収支差額は32・3億
円の支出超過となる予算
である。

千葉工業大学 令和4年度予算

資金収支

(単位：円)

科 目	収入の部		
	令和4年度予算	令和3年度予算	差異
学生生徒等納付金収入	14,700,000,000	14,554,900,000	145,100,000
手数料収入	275,000,000	275,000,000	0
寄付金収入	100,000,000	191,400,000	△ 91,400,000
補助金収入	1,002,400,000	1,084,400,000	△ 82,000,000
資産売却収入	0	232,300,000	△ 232,300,000
付随事業・収益事業収入	650,000,000	689,000,000	△ 39,000,000
受取利息・配当金収入	380,000,000	485,000,000	△ 105,000,000
雑収入	230,000,000	656,900,000	△ 426,900,000
前受金収入	5,110,000,000	5,110,000,000	0
その他の収入	3,009,000,000	9,142,700,000	△ 6,133,700,000
資金収入調整勘定	△ 5,360,000,000	△ 6,264,900,000	904,900,000
前年度繰越支払資金	14,337,960,000	12,610,200,000	
収入の部合計	34,434,360,000	38,766,900,000	△ 4,332,540,000

科 目	支出の部		
	令和4年度予算	令和3年度予算	差異
人件費支出	7,241,200,000	7,664,600,000	△ 423,400,000
教育研究経費支出	4,907,400,000	4,345,900,000	561,500,000
管理経費支出	1,394,400,000	1,139,340,000	255,060,000
施設関係支出	715,100,000	1,169,100,000	△ 454,000,000
設備関係支出	654,100,000	701,400,000	△ 47,300,000
資産運用支出	7,000,000	6,341,600,000	△ 6,334,600,000
その他の支出	2,850,000,000	3,126,000,000	△ 276,000,000
[予備費]	300,000,000	300,000,000	0
資金支出調整勘定	△ 400,000,000	△ 359,000,000	△ 41,000,000
翌年度繰越支払資金	16,765,160,000	14,337,960,000	2,427,200,000
支出の部合計	34,434,360,000	38,766,900,000	△ 4,332,540,000

事業活動収支

(単位：円)

科 目	収入の部		
	令和4年度予算	令和3年度予算	差異
学生生徒等納付金	14,700,000,000	14,554,900,000	145,100,000
手数料	275,000,000	275,000,000	0
寄付金	100,000,000	191,400,000	△ 91,400,000
経常費等補助金	952,400,000	1,074,900,000	△ 122,500,000
付随事業収入	650,000,000	689,000,000	△ 39,000,000
雑収入	230,000,000	448,100,000	△ 218,100,000
教育活動収入計	16,907,400,000	17,233,300,000	△ 325,900,000
人件費	7,241,200,000	7,664,600,000	△ 423,400,000
教育研究経費	4,907,400,000	4,345,900,000	561,500,000
(内、減価償却額)	2,519,900,000	2,552,400,000	△ 32,500,000
管理経費	1,394,400,000	1,139,340,000	255,060,000
(内、減価償却額)	636,800,000	632,300,000	4,500,000
徴収不能額等	0	1,000,000	△ 1,000,000
教育活動支出計	16,699,700,000	16,335,500,000	364,200,000
教育活動収支差額	207,700,000	897,800,000	△ 690,100,000

教育活動外収支差額	380,000,000	693,760,000	△ 313,760,000
経常収支差額	587,700,000	1,591,560,000	△ 1,003,860,000
特別収支差額	48,000,000	307,000,000	△ 259,000,000

基本金組入前当年度収支差額(予備費含む)	635,700,000	1,898,560,000	△ 1,262,860,000
基本金組入額合計	0	△ 21,200,000	21,200,000
当年度収支差額	635,700,000	1,877,360,000	△ 1,241,660,000
前年度繰越収支差額	△ 3,892,140,000	△ 5,469,500,000	1,577,360,000
基本金取崩額	25,000,000	0	25,000,000
翌年度繰越収支差額	△ 3,231,440,000	△ 3,592,140,000	360,700,000

(参考)			
事業活動収入計	17,337,400,000	18,238,900,000	△ 901,500,000
事業活動支出計	16,701,700,000	16,340,340,000	361,360,000

これまで大学として重
点的に取り組んできた留
年者や退学者の抑制策に
ついては、追加的な補習
授業の実施や再試験制度
及び特別評価制度の導入
により、授業の到達目標
や評価基準を維持しつ
つ、留年者及び退学者の
減少に効果をあげ、令和
3年度の退学者は200
人を大きく下回った。
地域社会との連携につ
いては、包括連携協定を
締結している県内17の市
町等を中心に、今後も協
力関係を維持、推進して
いく。研究及び産官学連
携については、新たな研
究センターとして「変革
センター」を開設し、社
会のあらゆる分野で起き
ている根本的な変化を通
して、社会をよくするた
めの新しい知である、技
術的プラットフォームや
文化的なアウトプットを
想像・設計・構築する場
となることを目指す。ま
た、既設の研究センター
や「学校法人千葉工業大
学産官学連携協議会」と
の連携を通じて、研究の
活性化と産学連携の強化
を推進するとともに、支
援プログラムを実施する
など、積極的に外部資金
の獲得に取り組む。

80周年 学食サプライズ



トレー裏にミールチケット

創立80周年記念日(5月15日)を前に、5月11~13日の水・木・金曜日、学生食堂で「80周年記念サービス」として

ミールチケット(食券)を、1日あたり津田沼食堂で80人、新習志野食堂では100人(3日間で合計540人)にプレゼントした。



「ミールチケットは、両キャンパス食堂の食事配膳トレーの裏に添付されるサプライズ方式で、学生たちはトレーを手にするたびに「ない」「はずれだ」「ええ!」あ

「た!」と、楽しんだ。食堂運営のため設立された会社「CITサービ

「※コロナ対策のため現在、食堂では座席数を縮小して営業しています。消費や黙食など、皆様には今後とも協力をお願いします。」

一緒に打ち上げよう

「ロケガ」高校生募集

人気講座「ロケットガール&ボーイ養成講座(通称ロケガ)」2022

6月5日のキックオフから、新習志野キャンパスでのモデルロケット打ち上げや燃焼実験を経て、夏休み期間中には集中して制作に取り掛かり

10月29、30日、千葉県夷隅郡御宿町での打ち上げを目指す。

今年も多数の応募があり、「実際に自分でロケットのエンジンを作ってみたい」「仲間と一つの

ものを作る楽しさを味わいたい」「講座を通して自分が出ること、逆に足りないものを見つけたい」と意欲的だ。

人気が高まっている。ロケットガール&ボーイ養成講座(通称ロケガ)2022の募集が今年も始まった。ロケガは、さまざまな高校生が集まった仲間たちとチームを組み、ハイブリッドロケットの設計・製作から、その打ち上げに至るまで、全て高校生自身の手で実現し、プロジェクトマネージメントや、ものづくりの

★ハイブリッドロケット 火薬などを使わず、液体あるいは気体の酸化剤と固体の燃料を組み合

わけて推進剤とするロケット。比較的安全性が高く、大きな推進力を得られることから、大学などでのロケット実験に多く使用されている。打ち上げの様子は迫力があり、御宿町射場での打ち上げは高度200~300mに達する。打ち上げ時には企画運営側が安全管理を徹底。同時に高校生自身も安全性に対する意識を学ぶことができる。



教員

新任紹介 (敬称略)

小島 磨 教授 (電気電子工学科)



林 真一郎 助教 (電気電子工学科)



新谷 幸弘 教授 (経営情報科学科)



西松 研 教授 (経営情報科学科)



松田 泰明 准教授 (応用化学科)



野村 由実 助教 (教育センター・創造工学部)



工藤 翔慈 助教 (応用化学科)



中村 達 助教 (教育センター・社会システム科学部)



高松 佑介 助教 (教育センター・社会システム科学部)



職員

藤井 那佳 (就職・進路支援部 事務職員)



柳田 拓也 (教学センター・津田沼学生担当 事務職員)



三角 晋介 (施設部・電機室 技術員)



松本 和久 (総務部・津田沼警備室 警備員)



荻田 智郎 (教学センター・新習志野警備室 警備員)



笠井 伸好 (施設部・新習志野用務員)



PPA



「レジリエンス」という言葉を最近知りました。本来は、物理学で用いられたようですが、心理学、生態学、医学、経済学においても幅広く多用される言葉として認知されました。これは一般的に「復元力」、「回復力」、「弾力」などと訳され、近年は特に「困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びる力」という心理学的な意味で使われるケースが増えているそうです。

2020年に打ち上げられた民間宇宙船「クルードラゴン」の機体が、搭乗した宇宙飛行士4人によって「レジリエンス」と名づけられたことでも話題となりました。さらに「レジリエンス」の概念は、個人から企業や行政などの組織、システムにいたるまで、社会のあらゆるレベルにおいて備えておくべき危機管理能力としても注目を集めているそうです。結びに、パリ市紋章に刻まれたラテン語「FLORES SUGGERUNT」すなわち「たゆたえど沈まず」という標語を添えて、自由で多様な学びの場を構成するレジリエントな学生、教職員、保護者の皆様に心より敬意を表したいと思います。

PPA会長 石上 藤吾

四季雑感



調べものがあったり、四月末日に外房線でいすみ市を訪ねた。ついでに少し足を延ばして、いすみ鉄道に乗り、大多喜町まで行った。大学一年生のときの課題で、大多喜町役場のスケッチというのがあり、懐かしさもあって、三十年近くぶりに再訪した。

駅から町役場までの道のりは、もっと遠かったように思うが、一瞬で着いた。スケッチするのに座った場所、同時に居合わせた同級生の顔など、枝葉の記憶だけが何故か鮮明に思い返された。帰路は期せずして、土日・祝日に一日一本だけ運航している急行列車に乗ることとなった。単に停車駅を飛ばすだけかと思いきや、旧国鉄時代の気動車で、車内では改札口による切符切り、途中

編集だより



高校時代の同級生と、久しぶりに地元で再会した。最後にあったのは15年ほど前か……。親友と呼べるほど近い友人は、高校時代、大学時代、勤務先での現在、それぞれで数人ほど。中でも高校時代の友人とは、地元御宿が観光地として

特に覚えていた時代で、実家である酒屋と民宿のアルバイトのため、住み込みで1カ月、寝食を共にしたつわもの達だ。今でこそ、なんとなく落ち着いた雲間気の海水浴場だが、遠い昔、夏の御宿は尋常じゃない数の観光客であふれていた。民宿では掃除に料理となく、何でもござれ。高校生ながら、キャベツの千切り選手権で優勝できるほどの腕前にまで上達。慣れ

入試広報課 大橋 慶子